資料1－3②

石狩市風力発電ゾーニング手法検討委員会
作業部会開催結果報告書

平成３０年１月３０日

部会名称		平成２９年度第１回事業性の検討に関する作業部会　　※３部会合同開催
開催日時		平成２９年１２月２６日（火）　１０：００～１２：１５
開催場所		石狩市総合保健福祉センター「りんくる」　交流活動室
出席者	検討委員	白石
	部会員等	部会員：秋、加藤、春日、中村、糸谷、糟谷 アドバイザー：中原
欠席者	検討委員	藤井、石井
	部会員等	部会員：和田、田中、酒巻 アドバイザー：赤坂
事務局		（石狩市）新岡、中村 （委託事業者）株式会社パスコ　蒲、雑賀
傍聴者数		４名
議題等		１　開会 ２　説明　　※３部会合同 ・風力発電ゾーニング計画について （１）石狩市ゾーニング計画について　資料１ （２）ゾーニング計画の事例について　資料２ ３　情報提供 ・風力発電を取り巻く現状等について ４　説明 ・ゾーニングマップの作成手法　資料３ ５　意見交換 （１）部会長の互選 （２）意見交換等 ・ゾーニング事業に関する内容、不明点等の確認 ・追加すべき情報や項目に関する意見、要望 ６　閉会
結果		○議題２、４について事務局から説明。 ○議題３に関して、一般社団法人海洋産業研究会中原氏、NPO 法人 Envision 環境保全事務所　長谷川氏より講演。 ○議題５　意見交換 （１）部会長に白石委員を選出し、部会のファシリテーターを依頼。 （２）部会員参加者による意見交換を実施。 ・主な発言内容は、別紙「会議内容の記録」のとおり。

（部会員等氏名の表示については敬称略）

会議内容の記録

議題５（２）意見交換等

・ゾーニング事業に関する内容、不明点等の確認

・追加すべき情報や項目に関する意見、要望

（ファシリテーター）

主にこの作業部会では事業が成立するような海域、先行利用者との関係などについて検討を行い、今後のゾーニングを進めていきたいと考えている。

（部会員）

海洋が主な検討場所になるのか。

（事務局）

海洋だけではない。

（アドバイザー）

本スクリーニングにおいて、区画漁業権は示されているが、共同漁業権が示されていない。また、既存資料で主要な漁場や漁業実態が判るはずなので、主要な操業海域などをマップ上に示すべき。船舶の主要な海上交通ルートを示すべきである。議論をするためには、まだ十分な情報がそろっていないようである。

長崎県西海市を例にすると、海洋でも景観保全に配慮すべき場所（教会）があり、石狩市においてそのような場所があるか調べることが必要ではないか。

（ファシリテーター）

海上交通ということで海上保安庁（オブザーバー）よりご意見はあるか。

（オブザーバー）

石狩湾新港では留萌方面、小樽方面へのローカルルール的な航路があり、だいたいの船はこの航路を使っている。航路を知らない船はそのほかを航行しているものもある。このような情報は提供することが可能であると思う。

（ファシリテーター）

航路に関する情報は非常に重要な情報であるので、今後の資料に反映させていく。

（部会員）

厚田の2,000kW の２基が丘に建ってから、この地先でニシンが取れなくなったと聞いた。漁師さんはここで取れないならほかで取れば良いと言っているらしい。これからも洋上を含めて風発が建てられるが、漁業への影響はどうなのか。

（部会員）

我々はニシンのことを考えると、良いことはないと思うので、このようなことはやって欲しくないと考えている。火力発電所では冷却水取水口に稚魚などが吸い込まれる現状や温排水の影響があるが、ニシン不漁と、風力発電事業や火力発電事業との因果関係をはっきりと示すデータはない。漁業者は生活に直結する不漁に対する危機感が大きい。

（部会員）

厚田の２基より大きな風力が今後建つ予定があるが、漁業に影響が出るのではと自分の健康も含めて心配である。インターネットで、漁師さんが漁の途中で具合が悪くなり、帰らなければならな

くなったというのを見たこともある。

（ファシリテーター）

過去からの漁獲高の統計データを海域別に整理しておくことが、将来的にも重要ではないかと思う。温排水の問題と、風力の問題とがあり、どちらが支配的な影響要因であるかは海水温のデータなどがないと判断が難しい。

（アドバイザー）

統計データでは十分な情報が少なく、解析が難しい。データがない場合、風車ができる以前の漁場や操業実態を含め漁業者に対するヒアリング調査を実施してはどうか。岩手県の洋野町では洋上風力発電に関して漁業者への聞き取り（標本船調査）を行っている。海上交通については、海上保安庁の公開 DB において得られる情報がある。ただし、情報が古い可能性がある。

（部会員）

知人が健康を害しており、因果関係はわからないと言われているが、通院している。この場合、健康保険の費用が発生し、大きな健康被害が出た場合、保険で使われる金額も大きくなるため、お金の問題にもなるので、事業性の観点として健康被害は対象とならないのか。

（ファシリテーター）

騒音等に関連して検討することになると思われる。

（アドバイザー）

基本的には健康被害がないように十分な距離を置くことが重要である。

（部会員）

事業性部会なので、この観点からゾーニングに必要な項目について議論すべき。

（部会員）

風況などは整理されているが、事業性（事業者側）としては電力を供給するための情報、系統連系等の情報は必要である。これがないと、奥地が適地という表現はできないのではと感じる。

（ファシリテーター）

系統連系の問題は難しく、現時点では将来的に整備される可能性なども残してゾーニングすることになるかと思う。

（アドバイザー）

ただし、現時点での系統連系の状況は整理しておく必要があるだろう。

ゾーニングに資する情報については、環境省モデル事業の先進事例と情報交換し、有効な情報を取り入れると良い。

以上